

第 45 回科学者委員会議事要旨（メール審議）

1 議決日 平成 26 年 9 月 26 日（金）

2 審議内容

提案 1 日本学術会議中国・四国地区会議主催学術講演会の開催について(資料 1)

提案 2 :『学術の動向』受賞報告掲載_フランクリン賞受賞紹介について(資料 2)

3 結果

提案 1～2 について、原案のとおり承認され、提案 1 については幹事会に提案されることとなり、提案 2 については、10 月の学術の動向に掲載されることとなった。

日本学術会議中国・四国地区会議主催学術講演会の開催について

1. 主 催： 日本学術会議中国・四国地区会議
2. 日 時： 平成26年12月6日（土）13:30～17:00
3. 会 場： くにびきメッセ 大展示室
(島根県松江市学園南1丁目2-1)

4. 次 第：

- (1) 13:30～13:45 挨拶
小林 祥泰 日本学術会議連携会員 島根大学学長
日本学術会議会長（予定）
- (2) 13:45～14:45 松江街づくり関連の基調講演（タイトル未定）
大西 隆 日本学術会議会員 豊橋技術科学大学学長
- (3) 14:45～15:45 講演
 - ・松江発プログラミング言語 Ruby 活用プロジェクト
野田 哲夫 島根大学法文学部教授
 - ・くにびきジオパークプロジェクト
野村 律夫 島根大学教育学部教授
 - ・ラマン分光学の医療応用プロジェクト
山本 達之 島根大学生物資源科学部生命工学科教授
 - ・神の粒子「ヒッグス粒子」プロジェクト
波場 直之 島根大学総合理工科学部物質科学科教授
- (4) 15:45～15:55 休憩
- (5) 15:55～16:05 講演
 - ・音楽を通じた地域活性化
浜田真理子（松江市まちづくり懇話会委員・歌手）
- (6) 16:05～16:25 浜田真理子ミニコンサート
- (7) 16:25～16:30
閉会挨拶 日本学術会議 中国・四国地区会議 代表幹事（予定）

フランクリン賞受賞紹介

世界的学術賞の一つ

ー フランクリン財団から ー

岩崎俊一・東北工業大学理事長

日本学術会議元会員・岩崎俊一氏が、この度、フランクリン財団から、世界的学術賞であるフランクリン賞（Benjamin Franklin Medal）を受章されました。岩崎氏は、日本学術会議第 15、16、17 期会員を務められ、東北工業大学理事長、日本学士院会員、東北大学名誉教授です。

ベンジャミン・フランクリンは 1706 年に米国で生まれ、風を用いて雷が電気であることを発見した物理学者で、のちにアメリカ独立宣言を起草した政治家でもあります。また、自由図書館やペンシルバニア大学などの創設にも力を尽くし、米国最高紙幣 100 ドル札の肖像で親しまれています。フランクリン財団は、そのフランクリンを記念し、科学・技術の啓発・普及を目的として 1824 年に創設された学術財団で、米国 Philadelphia に本部を置いています。

歴代の受賞者にはトーマス・エジソン、アレクサンダー・グラハム・ベルなどの著名な発明者、ヘンドリック・ローレンツ、ピーター・ゼーマン、ニールス・ボーア、マックス・プランクなど磁気物理でも高名な物理学者、キューリー夫妻、アルバート・アインシュタインなどの研究者が連なり、中には多くのノーベル賞受賞者が含まれます。今回のベンジャミン・フランクリン賞は、岩崎氏の電気工学をはじめとして、化学、地球環境科学、生命科学、機械工学、物理学、コンピューター科学（Bower 賞）、ビジネス（Bower 賞）の 8 分野 9 人に授与されました。日本からは過去にニュートリノ研究の小柴昌俊氏（ノーベル賞受賞）と戸塚洋二氏、電子顕微鏡の外村彰氏、青色 LED の中村修二氏、カーボンナノチューブの飯島澄夫氏、面発光レーザの伊賀健一氏らが受賞しています。

岩崎俊一氏の授賞理由

The development and realization of the system of Perpendicular Magnetic Recording, which has enabled a dramatic increase in the storage capacity of computer-readable media.

（コンピュータにおける記憶容量の劇的な増加をもたらした垂直磁気記録システムの開発と実現）

賞の対象となった垂直磁気記録は、岩崎氏が 1977 年に世界に先駆けて発明したものです。以来 28 年の研究を経て実用化に成功し、現代の情報化社会を支える情報ストレージ技術と

して世界中で大規模に利用されている社会貢献が顕彰されたものです。2005 年にハードディスク装置としての実用化に至り、現在では年間約 6 億台生産されるハードディスク装置のすべてが垂直磁気記録に置き換わっています。情報ストレージ技術史の中で最大のパラダイムシフトが達成され、人類社会の知見を記憶し続ける壮大な社会インフラとして幅広く活用されています。今回の授賞は、Computer-readable media が示すように、今日のビッグデータ時代の情報社会文明を導く基盤技術への貢献が評価されたものです。

日本学術会議第三部連携会員
東北大学電気通信研究所所長
大野英男

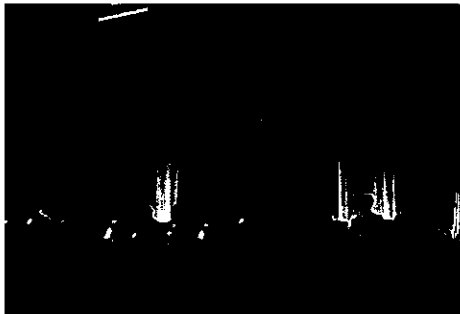


写真1 ベンジャミン・フランクリン賞受賞者
(岩崎氏は右から2人目)



写真2 フランクリン協会プレジデントからのメダル授与